



令和7年度 第22号

受験生は頑張っています！（中3・学力テスト）



中学部3年生は、10月3日（金）の1日をかけて、今年度3回目の「学力テスト」に挑みました。1日の中でこのように5教科すべてのテストを受けることは、集中力の関係でかなり大変なことです。しかし間もなく始まる高校受験では、1日に5教科を受験することも普通にあります。受験本番に向けての練習としても十分に慣れておく必要があると思います。大変だけど頑張ってくださいね。

さて、私（＝校長）の長い教員生活（35年間）のほとんどは、中学校・数学を担当してきたわけですが、その経験の中で効果的だった勉強法をこっそり教えます。それは

「見直しノート」を作ることです。この「見直しノート」とはやり終わったテストを貼った復習ノートなのですが、とにかくテストが終わる度に間違った問題の1つ1つについて、①問題を写す、②正解を確認する、③なぜ間違ったかを分析する、④次に間違えないためにはどうするか考えるの4点について根気強く取り組んでいくのです。確かに90点や80点を取っていたら直す問題は少なくてやれそうですが、30点や40点だったら取り組む量が多すぎるという指摘はあります。しかしそんな場合でも、それぞれの問題には「もう少し理解していたら解けそうだった」とか「この教科なら全部でも見直せる」といった違いがあるはずですから、是非できるところから取り組んでみてほしいと思います。「千里の道も一歩から」とことわざにあるように、歩み出さなければ何も変わっていきません。そして、歩み出してみると見える景色は違ってくるはずです。例えば、40点が60点になれば「やる気」にも火が付いてくるものです。勉強って分かってくると面白いものですよ。

《 学校公開に来校いただき、ありがとうございました 》

10月1日（水）は学校公開日でした。当日には多くの保護者の皆様に来校いただき、授業を中心に休み時間の様子なども見ていただきました。本当ありがとうございました。

またこの日は、子供たちにとって「学校の様子を家族にみられる特別な日」です。そして各学年では、保護者の皆様に参観していただける貴重なチャンスととらえ、そのチャンスをうまく活用した授業内容となっていました。例えば4年生の合同授業では、ゲストティーチャーをお招きし、正式なテーブルマナーを教えてもらいました。この授業の中では、ホスト（招待した人）とゲスト（招待さ



れた人）が座る位置や、食器やナイフ、フォーク、スプーンの並べ方や使い方についても教えていただきました。正式なテーブルマナーは、大人であっても自信をもって「こうです!」と言い切れないものだと思います。このようにしっかりと習う機会をもつことで、今後はフォーマルな席でも臆することなく食事ができることと思います。よい経験ができましたね。（4年生の皆さんは、「お父さん、そのテーブルマナーは違うよ!」などと指摘しすぎてはいけませんよ）

《 小学部児童会が「あいさつ運動」を実施 》



中学部が玄関前で選挙運動をしている頃、小学部の児童会は玄関奥のホールで「あいさつ運動」をしていました。元気な「おはようございます!」のあいさつで、する方もされる方も共に清々しい気持ちになります。1日の始まりがこのような清々しくなると、何かいいことが起こりそうな気持ちになります。

《 ホール（と心に）に響く美しいハーモニー♪ 》

10月2日（木）7時間目、校舎内に美しい歌声が響き渡りました。歌声の主は中学部でした。合唱祭に向け各パートの音とりが終わったようで、練習の終わりにはソプラノ、アルト、テノールの各パートが揃っての合唱も聴くことができました。紙面では音の素晴らしさは伝えられませんが、保護者の皆様には本番まで暫し待っていただくことになります。期待を裏切らない素敵なハーモニーだと思います。お楽しみに。



《 今日の授業風景（小学部4B・図画工作） 》



小学部4年生の図工の様子です。子供たちは水彩画を描いていました。担当の先生に「何という題名の絵を描いているのですか?」と尋ねたところ、「運動会の思い出」だと教えてもらいました。あれから約1か月間が経ちましたが、子供たちにとっては強く記憶に残った行事だったのでしょね。



〔 校長のつぶやき ～2度の派遣で思うこと～ 〕

以前にもお伝えしたことがあると思いますが、私が日本人学校に派遣されたのは2度目です。この2回の派遣を通じ、最近、確信めいたものを感じるようになってきました。それは、「日本人は愛情の伝え方を欧米人から学ぶべきではないか」ということです。（ここで言う「愛情」とは主に「親が子を思う気持ち」です）日本だろうが欧米だろうが、親が子を愛おしく思う心に違いはないとは思いますが、それを伝える方法に違いを感じます。私は「察する」日本に対して、「ストレートに伝える」欧米という印象をもっています。長い歴史の中で培われてきた国々それぞれの親子関係ですから、簡単にどっちがいいという問題ではありません。しかし確かに存在する親の愛情が、日本では子供に十分に伝わっていない場合も多いようです。世界との比較で日本の子供たちの自己肯定感（自分には価値があるという感覚）や自己有用感（自分は役に立っているという感覚）が低いという情報をよく耳にしますが、親の愛情の伝え方との関連は深いと思います。

先日、娘の友人家族と同行する機会がありました。短時間であっても、傍から見ていても、その友人が愛されていることがはっきりと伝わってきました。このように「愛されている確信」をもった人間は、社会に巣立った後でも、自分に自信をもって生きていけるのではないかと思います。今日この頃です。